

スモークフェンスT 設計・施工上のご注意

スモークフェンスTは、耐震性能を向上させたガラス防煙垂壁です。ガラスの破損を最小限にし、万が一の破損に対しても脱落しにくい構造になっています。設計・施工上のご注意を厳守してお取り扱いいただきますようお願いいたします。

特長

1 耐震性

壁や柱と接する面に緩衝材「端部タイト材」を設けることにより、ガラスの面内変形を吸収、層間変位角1/50の面内変形を許容できます（標準高さ500mmの場合）。また、面外方向の揺れに対しても、応力が発生しにくい構造となっています。

2 安全性

ガラスと吊り金具がメタルタッチにならないので、ガラスが破損しにくい構造です。万が一、ガラスが破損した場合でも、落下防止用の下枠「ボトムチャンネル」が通っているので、ガラスが脱落しにくい納まりとなっています。吊り金具の引き抜き強度は、ガラス重量の約7倍を確保しています。

3 施工性

天井下地を利用するので、インサートや溶接なしで取り付けられ、位置調整も簡単にできます。万が一、ガラスが割れたときの補修も容易です。

設計・施工上のご注意

1 ガラス高さは、500mmが標準です。地震時の脱落を防止するために、ガラス高さは**900mm以下**でご使用ください。**900mmを超えての連続使用はできません。**

ただし、天井の段違いを解消するために使用するガラスは、1枚に限り、最大1200mmの高さまで使用可能とします。スモークフェンスTは、極端な天井段差、複雑な天井構造には対応していないため、ご採用の際はご注意をお願いします。

また、ガラスの割付寸法は、**1枚のガラス面積が1㎡以下**になるように割り付けしてください。

T型部・十字型部の納まりに関しましては、方立にかかるガラスの合計面積が1㎡以下になるように割り付けしてください。

2 ガラスと金物の重量はすべて天井下地（野縁受け）に作用します。天井下地が地震時にもガラスの重量に耐えられる構造であることを必ずご確認ください。

地震時に天井下地に作用すると考えられる荷重は、標準寸法（H500mm）の場合には1mあたり約20kgf、最大寸法（H900mm）の場合には1mあたり約35kgfです。

3 ガラス破損時の脱落防止のため、ボトムチャンネルは、必ずシリコーンシーラントでガラス下辺に接着してください。

- 4 6.8ミリ厚の線入板ガラス又は網入板ガラス以外のガラスは、ご使用になれません。
上記以外の品種のガラスを使用される場合は、所轄行政庁へ使用の可否のご確認をお願いいたします。
- 5 ガラス端部と壁・柱などとの取り合い部には、緩衝材として、必ず端部タイト材をご使用ください。スモークフェンスTは、地震時に面外方向に揺れて、ガラスの破損・脱落を防止します。端部のガラスが破損する恐れがありますので、ガラス端部を壁・柱などに固定しないでください。
- 6 **脱落する危険性がありますので、天井ボード及び強度の低い天井下地への直付けは、絶対にお止めください。**
- 7 スモークフェンスTは耐風圧性能を有していません。必ず、屋内で風圧のかからない部位に施工してください。
- 8 吊り金具は、「標準」「端部」「コーナー」「T型」「十字型」「緩衝金具セット」の6種類があります。「コーナー」「T型」「十字型」の対辺には、必ず「緩衝金具セット」を使用してください。
- 9 天井バーへのガラスの取り付けは、**専用の接着剤とガスケット**を使用するか、又は**シリコーンシーラントを充填**してください。
- 10 曲げガラス仕様（Rタイプ）は取り扱いを終了しました。
- 11 **防火シャッター**周りの取り付け、**ブラインドボックス**との取り付けなども、標準納まりで対応できるよう、割付や配置をご検討ください。
- 12 万が一、**標準納まりで取り付けられない場合は**、できるだけガラスの割付を小さくして、**個別にガラスの破損・脱落防止対策を講じてください。**

警告： スモークフェンスTのご採用、設計、工事にあたっては、「スモークフェンスT設計施工マニュアル」、「スモークフェンスT標準納まり図」を十分にご理解の上実施ください。

お問い合わせ：「スモークフェンスT設計施工マニュアル」、「スモークフェンスT標準納まり図」に関するお問い合わせ、特殊な納まりについてのご相談は
日本板硝子S&S株式会社 ファサード事業部までご連絡ください。

日本板硝子S&S株式会社 ファサード事業部 営業部

TEL：03-5811-1153

営業日：平日（年末年始、GW、夏季休業日についてはお問合せ下さい）

営業時間：9:00～17:50